

仙北市読書感想文 コンクール

「平成25年度仙北市読書感想文コンクール」(仙北市教育委員会主催・角館図書館後援会後援)が行われ、仙北市長賞に千葉由希さん(神代小6年)と千葉沙陽佳さん(角館高3年)が選ばれました。

今回は、仙北市内の小・中学校のほか、角館高等学校・角館南高等学校からの応募があり、総数は166点に達しました。2月23日に仙北市総合情報センターで表彰式が行われ、集まった入賞者に熊谷徹教育長から表彰状と記念品が手渡されました。

仙北市長賞(高校・一般の部)



『介護とは』

角館高等学校三年 千葉沙陽佳

この本は、里村良一さんの四十一
年間の介護人生が書かれています。

仙北市長賞(小中学校の部)



『強い信念をもって生きる』

神代小学校六年 千葉由希

私は以前、宮沢賢治の生き方を本
で読んだ。そして、賢治のふるさと
の人々を愛する心や、人々の幸福を
求めた行動力に感動した。今回読ん
だ野口英世も賢治と同じ東北に生ま
れ育った人だ。英世や賢治と同じ東
北人である私にとって、英世の生き
方にも何か得るものがあるのではな
いかと思い、読み始めた。

英世は、一八九七年に医者にな
る。そしてペスト菌の発見をきつ
かに、中国、米国、デンマーク、そ
して南米と、人々を苦しめる様々な
病原菌の研究に生がいそがせた人
だ。

なぜ英世は、世界を飛び回り、病
原菌の研究に生がいそがせたのだ
ろうか。また、英世を動かす力となっ
たのは何だろうか。
それは、英世が多くの人に支えら

要とする人が自分にとって大切な人
ならなおさらです。笑顔は介護をし
てくれた人への心からの恩返しでは
ないかと思えます。

本の初めに、「たとえ人生の
九十九パーセントが不幸であったと
しても、最期の一パーセントが幸せ
ならば、その人の人生は幸せなもの
に変わる」とありました。これは、
里村良一さんの妻である能子さんの
人生そのものだと思います。また、
私は介護士を目指しているのでこの
言葉は私にとっても響きました。

里村良一さんの日記の中に「おは
ようと言えば、おはよう挨拶が
返ってくる。たつたそれだけのこと
が嬉しい」とありました。本当にそ
の通りだと思います。当たり前のこ
とを当たり前にできたことが本当に
嬉しく感動すると思います。認知症
の介護は大変ですが認知症だからこ
そ当たり前のことの大きな喜びに気
づけるのだと思いました。また、そ
れは介護をする人にとって大切なこ
とだと思えます。

もう一つ日記の中の「家内には未
来に対する不安がない。それは、通
常の人間が望んでも得られない、最
期を静かに迎えつつある人間として
の、ひとつの理想の在り方なのかも
しれない」という一文に、私の中の
認知症への考え方が少し変わしまし
た。認知症の方はかわいそうだ、何
もわからないで生きていくなんて辛

た英世、舞台は違っても強い信念を
もって生きた二人を同じ東北人とし
てすごいと思う。

私は、春に小学校を卒業する。こ
れまでをふり返ると、家族や友達
先生方、地域の人達など多くの人に
支えられて生きていることに改めて
気付かされる。私も、英世や賢治の
ように、感謝の気持ちをもって人々
の役に立てる人間になりたい。しか
し、私はまだ強い信念がもてていな
い。自分の考えに自信がないことが
ある。どうすればいいかわからない
が、きつと、自分の考えに明確な理
由をもてるまで深く考えることが大
切なのではないか。

私は、二人の東北人、野口英世と
宮沢賢治から大切なことを学んだ。
人々を愛する心や強い信念をもって
行動することの大切さ。これらを忘
れずに、自分の将来の目標をはつき
りと見すえ、東北人らしい、がまん
強くねばり強い心をもって一日一日
を大切にしながら努力していきたく
い。そして将来、ふるさとの人々の
役に立ち、人々を幸福にできる仕事
につき、強い信念をもって行動した
い。

読んだ本

野口英世

いだろうと思っていた自分が情けな
く感じました。良一さんの考えが正
しかったです。認知症の方は、今覚
えたことも過去の事も忘れてしま
います。未来に起こるであろうこと
も分かりません。しかしそれは辛いこ
とではありませんでした。辛いとい
うことすら分からないのです。それ
は幸せなことなのだと教えられまし
た。人間は死を考えると怖いです。
しかしそれすら考えなくても良いの
です。誰もが死への恐怖を考えたく
ないと願うことを認知症の方はでき
ます。それはきつと神様がくれた恩
寵だと思いました。

能子さんが施設へ入所してから
も、毎日会いに行き、食事介助をし
て一緒に散歩をしていたそうです。
これはなかなかできることではない
と思います。家族が施設にいても毎
日顔を見せることは大変だと思いま
すが、長期入所をしている方の家族
の対応として理想だと思います。で
すから、良一さんは能子さんにとつ
てかけがえのない人だったと思いま
す。認知症でわからなくなったとし
ても、心の中では、しっかりとわかっ
ていたと思います。

この本の最後の章は、「介護で見
つけた幸福」でした。それはきつと、
良一さんにも能子さんにも当てはま
る言葉だと思いました。介護をする
ということとは、とても大変だと思
います。しかし介護をすることで幸福

を見つけたという言葉は、介護の仕
事に不安をもっていた私を救ってく
れました。そして、介護を通して私
も幸せを見つけたいと強く思いま
した。

私は、この本でたくさんのことを
学びました。来年から介護の仕事
するので今この本に出会えて本当に
良かったと思います。介護の大変
さや辛さも知りました。しかし、良
一さんが一番伝えなかったことは大
変さや辛さではなく、介護を通して
感じることできた幸せだと思いま
す。このことを今介護で苦労してい
る人や介護の仕事をしている人な
ど、たくさんの人に読んでもらいた
いです。介護とは大変なこともある
けれど、それだけで終わりません。
当たり前のことを当たり前にできた
時の喜びに気づけたとき、介護をし
てきた人にとって最高の幸福だとい
うことをたくさんの人に知ってほし
いです。また、私が介護の仕事をは
めた利用者の方の笑顔のために寄
り添った介護をしたいです。そして、
介護で苦労している家族の方に、介
護の素晴らしさを伝えたいです。

読んだ本

しあわせの授業

「認知症の妻が教えてくれたこと」

読書感想文コンクール 審査結果(敬称略)

仙北市長賞

千葉 由希 (神代小6年)
千葉 沙陽佳 (角館高3年)

角館図書館後援会長賞

田口 秀 (角館中3年)
佐々木 彩愛 (角館小2年)
菅原 かな (角館高3年)

仙北市教育長賞

門脇 時男 (西明寺小3年)
洪谷 詩 (角館中3年)
小松 朝陽 (角館高3年)



入選 小学校低学年の部

渡辺 爽月 (白岩小2年)
加賀谷 美玖 (生保内小1年)
田口 結愛 (生保内小1年)

入選 小学校中学年の部

高橋 心晴 (白岩小4年)
門脇 七海 (桧木内小4年)

入選 小学校高学年の部

黒木 真帆 (神代小6年)
鎌田 音々 (白岩小6年)
小林 柊哉 (神代小5年)

入選 中学校の部

門脇 千咲 (角館中3年)

入選 高校・一般の部

小松 ひかる (角館高3年)

佳作 小学校低学年の部

佐々木 美桜 (角館小1年)
浅利 夏音 (桧木内小1年)
永井 一花 (生保内小1年)

佳作 小学校中学年の部

佐藤 鈴音 (西明寺小3年)
阿部 菜月 (西明寺小4年)

佳作 小学校高学年の部

赤坂 虹葵 (中川小5年)
渡邊 菜月 (白岩小5年)
高田 冬太 (神代小6年)

佳作 中学校の部

三浦 悠花 (神代中1年)
雲雀 裕稀 (角館中2年)

佳作 高校・一般の部

伊藤 みさき (角館南高1年)